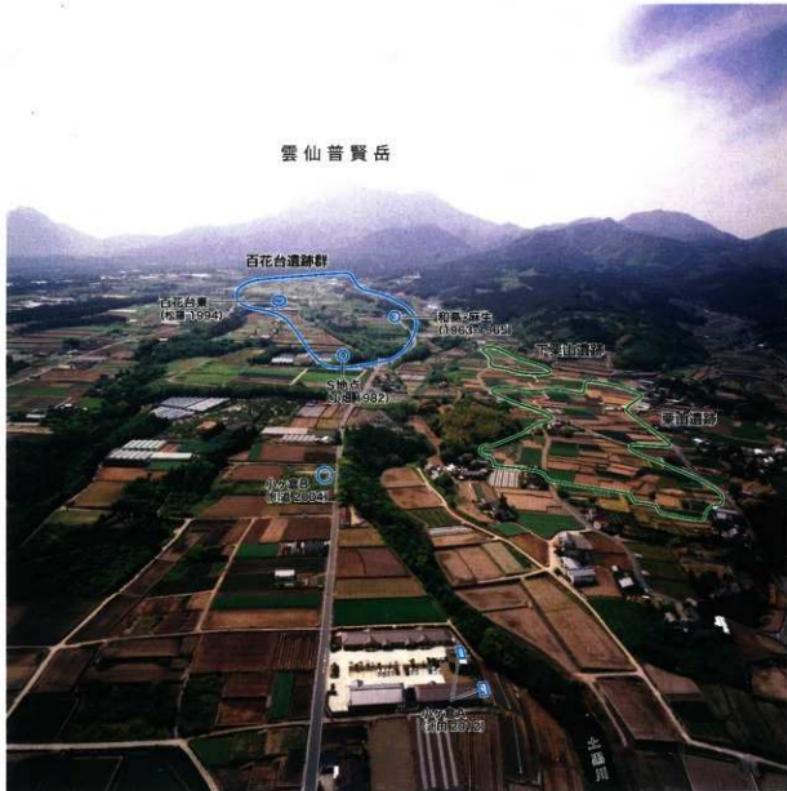


雲仙市文化財調査報告書 第15集  
Kuriyama Shimokuriyama  
**栗山遺跡・下栗山遺跡**

一八斗木地区県営基盤整備事業に伴う発掘調査報告一





雲仙市文化財調査報告書 第15集  
Kuriyama Shimokuriyama  
**栗山遺跡・下栗山遺跡**

—八斗木地区県営基盤整備事業に伴う発掘調査報告—

2017

長崎県雲仙市教育委員会





雲仙普賢岳山頂より 有明海を望む



有明海より 雲仙普賢岳を仰ぐ

巻頭図版②



栗山遺跡調査風景 (25区~32区)



栗山遺跡 26区調査風景



栗山遺跡 26 区出土石器（接合資料）（ほぼ 2/3）



栗山遺跡 27 区出土石器（接合資料）（ほぼ 2/3）



栗山遺跡 27 区出土石器（接合資料）（ほぼ 2/3）



## 発行にあたって

雲仙市は、雲仙普賢岳の麓、豊かな大地と、光輝く海に囲まれた、自然と文化のあふれるふるさとです。この報告書は平成 24 年度～平成 26 年度に実施した、農業競争力強化基盤整備事業八斗木地区に伴う栗山遺跡・下栗山遺跡発掘調査の記録です。

栗山遺跡・下栗山遺跡は、島原半島の北側、雲仙普賢岳より続く丘陵上に所在し、遺跡東側を流れる土黒川の対岸には、旧石器時代～縄文時代の大規模遺跡である百花台遺跡群があります。

今回の調査では、旧石器時代～中世にかけての遺構・遺物が確認されました。特に旧石器時代の石器群が多く見つかっており、古代人が黒曜石を打ち割って石器を作っていた様子が、石器の接合関係から見て取れます。今報告では、出土石器の科学的な分析作業を行い、石器石材の原産地が多く判明しました。その多くは、佐賀県嬉野市や伊万里市、長崎県西彼杵半島の黒曜石でしたが、遠くは、鹿児島県伊佐市から運ばれてきたものもあり、当時の人々の生き生きと生活する姿が想像できます。

この調査報告書が文化財の保護・保存のために多くの方に活用され、埋蔵文化財の保護に対する関心と理解をいただく資料になれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、ご指導、ご協力いただきました、地元自治会の皆様、工事関係者の皆様、大学・博物館関係の諸先生方、ならびに長崎県教育委員会学芸文化課、長崎県埋蔵文化財センターの皆様に衷心から感謝申し上げ、発行のことばといたします。

平成 29 年 3 月 24 日

雲仙市教育委員会

教育長 山野義一

## 例

1. 本報告は平成 24 年度～平成 26 年度に実施した八斗木地区県営圃場整備事業に伴う長崎県雲仙市国見町に所在する栗山遺跡・下栗山遺跡の緊急発掘調査の報告である。

2. 調査は雲仙市教育委員会が担当した。

発掘調査は下記の期間実施した。

平成 24 年度

2012 年 4 月 25 日～2013 年 3 月 29 日 970 m<sup>2</sup>

平成 25 年度

2013 年 4 月 15 日～2014 年 3 月 31 日 2,700 m<sup>2</sup>

平成 26 年度

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日 4,500 m<sup>2</sup>

3. 調査体制は次のとおりである。

調査主体 雲仙市教育委員会

教育長 塩田 貞祐（～平成 25 年 2 月）

教育長 山野 義一（平成 25 年 3 月～）

教育次長 山野 義一（～平成 25 年 2 月）

教育次長 岸川 孝（平成 25 年 4 月～）

教育次長 山本 松一（平成 26 年 4 月～）

生涯学習課長 村山 岩穂（～平成 25 年 3 月）

生涯学習課長 清水 清文（～平成 26 年 3 月）

生涯学習課長 稲本 克彦（～平成 27 年 3 月）

生涯学習課長 松橋 秀明（平成 27 年 4 月～）

文化財班班長 田中 卓郎（～平成 25 年 3 月）

文化財班班長 柴崎 孝光（平成 25 年 4 月～）

文化財班主任 富永 康史（～平成 26 年 3 月） 文化財班主任

横尾 幸治（平成 26 年 4 月～）

文化財班主任 林田 英明（平成 28 年 4 月～）

調査担当

文化財班参考補 辻田 直人

文化財班上査 村子 晴奈（平成 28 年 4 月～）

文化財調査員

村子 晴奈（～平成 28 年 3 月）

竹田 将仁（～平成 25 年 3 月）

青木 翔太郎（平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月）

堀井 香七（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

林田 好子（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

松崎 光伸（平成 27 年 4 月～）

竹本 成美（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

今西 亮太（平成 28 年 4 月～）

文化財整理員

早稻田 一美・柳原 亜矢子・本田 圭香（～平成 28 年 3 月）・三浦 幸菜（平成 28 年 4 月～）・吉田 光孝（平成 28 年 10 月～）

## 言

4. 現地での遺構・遺物の実測は林 繁美・福田 次郎・竹田 青木・堀井・林田・辻田・村子が行い、遺物の実測は竹田・青木・堀井・林田・松崎・竹本・早稻田・柳原・本田・三浦・辻田・村子が行い、一部は埋蔵文化財サポートシステム長崎支店及び九州文化財研究所長崎営業所に委託した。トレースは早稻田が行った。また、図版の編集・作成は早稻田・柳原・本田・村子・辻田が行い、写真は現地調査を竹田・青木・堀井・林田・辻田・村子が、遺物写真是早稻田・柳原・本田・辻田・村子が行った。

5. 石器の接合作業は本田・柳原が行い、接合石器実測の一部は埋蔵文化財サポートシステム長崎支店及び九州文化財研究所長崎営業所に委託した。また、接合石器のうち一部の資料は、長崎県埋蔵文化財センターにて三次元計測を行い、あわせて 3D プリントにてレプリカを作成した。

6. 第 4 章自然化学分析については、第 3 節Ⅲ及び第 4 節については㈱古環境研究所に、それ以外は㈱火山灰考古学研究所（No.0000571・0000645）に委託した。第 5 節については、長崎県埋蔵文化財センターにおいて辻田が分析した結果を報告している。

7. 空中写真撮影業務は㈱スカイサーべイ九州に委託した。

8. 本遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市歴史資料館国見展示館で保管している。

9. 本書で用いた方位はすべて真北であり、国土標は世界測地系による。

10. 現地調査および本書の刊行にあたって多くの方々からご助言いただいた、記して謝意を表します。下川達彌（活水女子大学）、早田勉（㈱火山灰考古学研究所）、萩原博文、川道 寛・片多雅樹・今西亮太（長崎県埋蔵文化財センター）、杉原敏之（九州歴史資料館）、九州旧石器文化研究会、福岡旧石器文化研究会、長崎県教育委員会（順不同）

11. 本書の執筆・編集は辻田直人・村子晴奈による。

# 目 次

巻頭図版

発行にあたって

例 言

本文目次

挿図目次

表 目次

図版目次

第1章 調査の経緯 ······	1p
第1節 発掘調査にいたる経緯	
第2節 発掘調査の方法及び経過	
第3節 遺跡の地理的・地形的環境	
第2章 基本土層 ······	5p
第1節 百花台遺跡群との対比	
第3章 検出された遺構と遺物 ······	8p
第1節 旧石器時代の遺物	
第2節 縄文時代の遺構・遺物	
第3節 おとし穴状遺構	
第4節 掘立柱建物跡	
第4章 自然科学分析 ······	99p
第1節 火山灰分析	
第2節 植物珪酸体分析	
第3節 放射性炭素年代測定結果	
第4節 炭素・窒素安定同位体比分析（植生分析）	
第5節 蛍光X線分析による石器石材産地同定	
第5章 まとめ ······	170p
第1節 総括	
第2節 まとめ	

## 挿 図 目 次

第 1 図 遺跡位置図(1/20,000)	2
第 2 図 遺跡周辺地形(1/10,000) · · · · ·	2
第 3 図 調査区配置図(1/4,000) · · · · ·	4
第 4 図 旧石器時代遺物出土状況(1/2000) · · · · ·	6
第 5 図 栗山遺跡・下栗山遺跡と百花台遺跡群・土黒川流域遺跡群との対比 · · · · ·	7
第 6 図 12 区・13 区・14 区遺物出土状況①(1/150) · · · · ·	8
第 7 図 12 区・13 区・14 区遺物出土状況②(1/150) · · · · ·	9
第 8 図 12 区・13 区出土遺物(2/3) · · · · ·	10
第 9 図 9 区・26 区遺物出土状況①(1/200) · · · · ·	12
第 10 図 9 区・26 区遺物出土状況②-1(1/100) · · · · ·	13
第 11 図 9 区・26 区遺物出土状況②-2(1/100) · · · · ·	14
第 12 図 9 区・26 区遺物出土状況②-3(1/100) · · · · ·	15
第 13 図 9 区・26 区遺物出土状況③-1(1/100) · · · · ·	17
第 14 図 9 区・26 区遺物出土状況③-2(1/100) · · · · ·	18
第 15 図 9 区・26 区遺物出土状況③-3(1/100) · · · · ·	19
第 16 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物①(2/3) · · · · ·	20
第 17 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物②(2/3) · · · · ·	23
第 18 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物③(2/3) · · · · ·	25
第 19 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物④接合資料①(2/3) · · · · ·	27
第 20 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物⑤接合資料①(2/3) · · · · ·	28
第 21 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物⑥接合資料②(2/3) · · · · ·	32
第 22 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物⑦接合資料③(2/3) · · · · ·	34
第 23 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物⑧接合資料④(2/3) · · · · ·	35
第 24 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物⑨接合資料⑤(2/3) · · · · ·	36
第 25 図 9 区・11 区・25 区・26 区出土遺物⑩(2/3) · · · · ·	37
第 26 図 5 区・27 区遺物出土状況①(1/100) · · · · ·	39
第 27 図 5 区・27 区遺物出土状況②(1/100) · · · · ·	40
第 28 図 5 区・27 区出土遺物①(2/3) · · · · ·	41
第 29 図 5 区・27 区出土遺物②(2/3) · · · · ·	43
第 30 図 5 区・27 区出土遺物③(2/3) · · · · ·	44
第 31 図 5 区・27 区出土遺物④接合資料⑥(2/3) · · · · ·	46
第 32 図 5 区・27 区出土遺物⑤接合資料⑥(2/3) · · · · ·	47
第 33 図 5 区・27 区出土遺物⑥接合資料⑥(2/3) · · · · ·	48
第 34 図 5 区・27 区出土遺物⑦接合資料⑥(2/3) · · · · ·	49
第 35 図 5 区・27 区出土遺物⑧接合資料⑥(2/3) · · · · ·	50
第 36 図 16 区・17 区遺物出土状況①(1/200) · · · · ·	54
第 37 図 16 区・17 区遺物出土状況②(1/150) · · · · ·	55
第 38 図 16 区・17 区出土遺物(2/3) · · · · ·	56
第 39 図 29 区・30 区・32 区遺物出土状況①(1/500) · · · · ·	58
第 40 図 29 区・30 区・32 区遺物出土状況②-1(1/250) · · · · ·	60
第 41 図 29 区・30 区・32 区遺物出土状況②-2(1/250) · · · · ·	61
第 42 図 29 区・30 区・32 区出土遺物①(2/3) · · · · ·	62
第 43 図 29 区・30 区・32 区出土遺物②(2/3) · · · · ·	63

第 44 図	29 区・30 区・32 区出土遺物③(2/3) ······	64
第 45 図	2 区遺物出土状況①(1/100) ······	66
第 46 図	2 区遺物出土状況②(1/100) ······	67
第 47 図	3 区遺物出土状況①(1/100) ······	68
第 48 図	3 区遺物出土状況②(1/100) ······	69
第 49 図	2 区・3 区・4 区出土遺物(2/3) ······	70
第 50 図	28 区出土遺物(2/3) ······	71
第 51 図	29 区 SK-39 土坑配置図(1/120) ······	78
第 52 図	29 区 SK-39 土坑検出状況(1/20) ······	78
第 53 図	29 区 SK-39 出土遺物(1/3) ······	79
第 54 図	3 区 SD-3 検出状況(1/120)・断面図(1/80) ······	80
第 55 図	12 区～22 区出土土器①(縄文時代晩期～弥生時代早期)(1/3) ······	81
第 56 図	12 区～22 区出土土器②(縄文時代晩期～弥生時代早期)(1/3) ······	83
第 57 図	おとし穴状遺構配置図(1/3,000) ······	87
第 58 図	3 区 SK-3 おとし穴状遺構検出状況(1/30) ······	88
第 59 図	13 区 SK-17 おとし穴状遺構配置図(1/400)・検出状況(1/30) ······	89
第 60 図	25・27・28 区おとし穴状遺構配置図(1/400)・検出状況(1/60) ······	90
第 61 図	25 区 SK-20 おとし穴状遺構検出状況(1/30) ······	91
第 62 図	25 区 SK-21 おとし穴状遺構検出状況(1/30) ······	92
第 63 図	27 区 SK-29 おとし穴状遺構検出状況(1/30) ······	93
第 64 図	28 区 SK-35 おとし穴状遺構検出状況(1/30) ······	94
第 65 図	28 区 SK-36 おとし穴状遺構検出状況(1/30) ······	94
第 66 図	28 区 SK-38 おとし穴状遺構検出状況(1/30) ······	95
第 67 図	14・15 区掘立柱建物跡配置図(1/200)・検出状況(1/40) ······	96
第 68 図	栗山遺跡・下栗山遺跡出土土器編年図(1/6・1/3) ······	170

## 表 目 次

第 1 表	旧石器時代遺物計測表(実測図掲載遺物) ······	72～77
第 2 表	出土土器観察表 ······	85～86
第 3 表	おとし穴状遺構計測表 ······	95
第 4 表	旧石器時代遺物計測表(出土遺物全体) ······	134～169

## 図 版 目 次

### 中表紙図版(カラー)

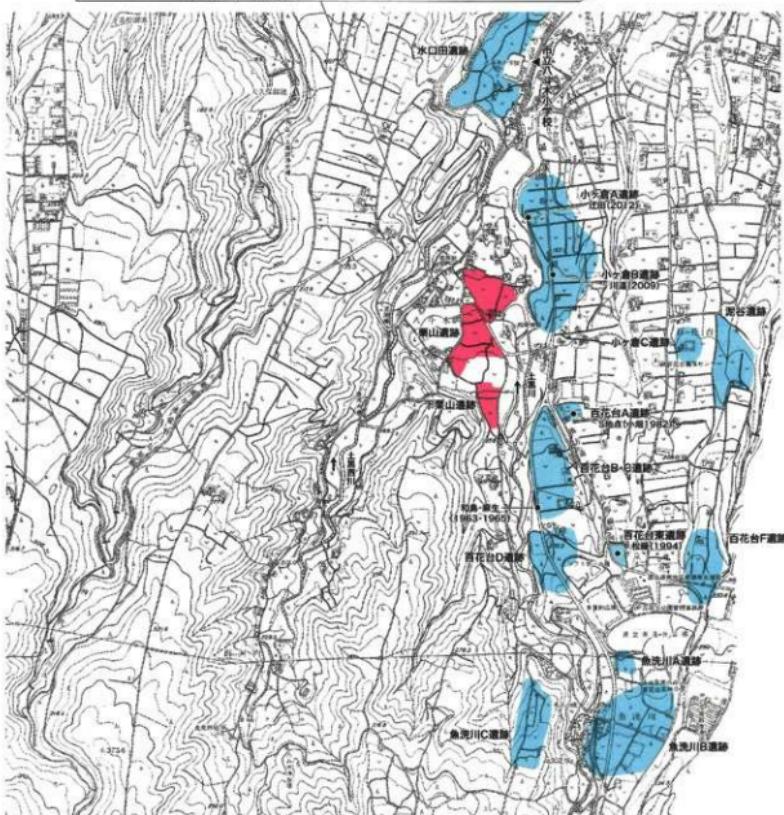
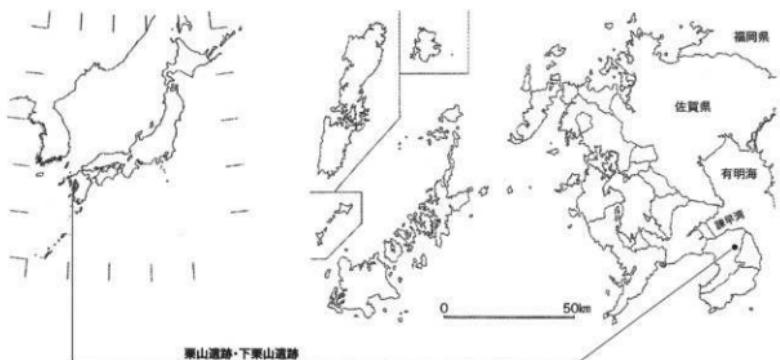
卷頭図版①(カラー)	雲仙普賢岳山頂より有明海を望む	有明海より雲仙普賢岳を仰ぐ
卷頭図版②(カラー)	栗山遺跡調査風景(25 区～32 区)	栗山遺跡 26 区調査風景
卷頭図版③(カラー)	栗山遺跡 26 区出土石器(接合資料)(ほぼ 2/3)	
卷頭図版④(カラー)	栗山遺跡 27 区出土石器(接合資料)(ほぼ 2/3)	
卷頭図版⑤(カラー)	栗山遺跡 27 区出土石器(接合資料)(ほぼ 2/3)	

88 頁 13 区 SK-17 おとし穴状遺構土層堆積状況(東側)

97 頁 14・15 区掘立柱建物跡完掘状況 14・15 区掘立柱建物跡 Pit46 半裁状況

図版 1	28 区 SK-38 完掘
遺跡上空写真(昭和 35 年国土地理院)	
図版 2	図版 7
遺跡近景(北より)	調査前の風景
遺跡遠景(南より)	調査前の風景(八斗木ねぎ)
下栗山遺跡 1 区～4 区	事前の草刈
栗山遺跡 5 区～11 区	調査区の設定
栗山遺跡 12 区～22 区	2 区調査風景
下栗山遺跡 29 区～32 区	2 区土層堆積
	3 区調査風景
	3 区上層堆積
図版 3	図版 8
基盤整備の進む遺跡	9 区調査風景
基盤整備の進む遺跡と雲仙普賢岳	9 区上層堆積
栗山地区 26 区遺物検出状況	12 区調査風景
	12 区 VI 層出土石器
図版 4	12 区 VII 層出土石器
29 区 SK-39 検出	12 区 VIII 層出土石器
29 区 SK-39 堀り下げ	12 区火山灰分析
29 区 SK-39 出土遺物	12 区火山灰分析
29 区 SK-39 完掘	
29 区 SK-39 調査風景	図版 9
3 区 SD-3 完掘	12 区上層堆積
3 区 SD-3 南壁土層	12 区完掘状況
3 区 SD-3 調査風景	12 区完掘状況
図版 5	12 区完掘状況
3 区 SK-3 検出	13 区・14 区調査風景
3 区 SK-3 断面	14 区土層検出
3 区 SK-17 堀り下げ	16 区・17 区調査風景
3 区 SK-17 調査風景	16 区・17 区調査風景
3 区 SK-20 半裁	
3 区 SK-20 スライス④-④'	図版 10
3 区 SK-21 半裁	16 区・17 区調査風景
3 区 SK-21 スライス③-③'	16 区・17 区調査風景
図版 6	16 区・17 区 VI 層出土石器
27 区 SK-29 半裁	16 区・17 区 VI 層出土石器
27 区 SK-29 完掘	18 区晚期土器出土状況
28 区 SK-35 半裁	25 区調査風景
28 区 SK-35 完掘	26 区調査風景
28 区 SK-36 半裁	
28 区 SK-36 完掘	図版 11
28 区 SK-38 半裁	26 区調査風景

26 区調査風景	図版 17
26 区調査風景	出土遺物写真 (第 8 図・第 16 図)
26 区調査風景	
26 区石器出土状況	図版 18
26 区石器出土状況	出土遺物写真 (第 17 図・第 18 図)
26 区石器出土状況	
26 区石器出土状況	図版 19
26 区石器出土状況	出土遺物写真 (第 19 図・第 20 図)
図版 12	
26 区完掘	図版 20
26 区完掘	出土遺物写真 (第 21 図)
26 区上層実測風景	
27 区調査風景	図版 21
27 区調査風景	出土遺物写真 (第 22 図・第 23 図)
27 区調査風景	
27 区石器集中部分	図版 22
27 区石器集中部分	出土遺物写真 (第 24 図・第 25 図)
図版 13	
27 区 VI 層出土石器	図版 23
27 区完掘	出土遺物写真 (第 28 図・第 29 図 74~78)
27 区石器集中部分の礫	
27 区石器集中部分の礫	図版 24
27 区土層堆積	出土遺物写真 (第 29 図 79・第 30 図)
28 区調査風景	
29 区・30 区調査風景	図版 25
29 区調査風景	出土遺物写真 (第 31 図・第 32 図)
図版 14	
29 区調査風景	図版 26
29 区・30 区調査風景	出土遺物写真 (第 33 図・第 34 図 88~4)
29 区調査風景	
29 区石器出土状況	図版 27
29 区 VI 層出土石器	出土遺物写真 (第 34 図 88~5~6・第 35 図)
32 区調査風景	
32 区上層堆積	図版 28
暑さ対策の遮光ネット	出土遺物写真 (第 38 図・第 42 図)
図版 15	
出土遺物写真 (第 53 図・第 55 図 2~17)	図版 29
出土遺物写真 (第 55 図 18~23・第 56 図)	出土遺物写真 (第 43 図・第 44 図)
図版 16	
出土遺物写真 (第 49 図・第 50 図)	図版 30



第1図 遺跡位置図 (1/20,000)

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 発掘調査にいたる経緯

平成19年度に長崎県島原振興局より、国見八斗木地区の基盤整備事業の計画があるとの照会を受け、雲仙市教育委員会が主体となり、平成20年度・平成21年度に事業予定地内の遺跡範囲確認調査を実施した。その結果、当初の遺跡地図では栗山遺跡のみの周知であったが、栗山遺跡の範囲が大きく変更となり、その南側に下栗山遺跡を発見することとなった。島原振興局農村整備課・雲仙市農山村整備課・八斗木地区土地改良区・雲仙市教育委員会による協議の結果、設計変更により遺跡の大部分は盛土により保存を行うこととなったが、遺跡の消滅する部分について全面発掘調査を実施することとなった。本調査は平成24年度～平成26年度の3カ年にわたって実施し、平成27年度・平成28年度において整理作業・報告書作成を行った。今回報告する調査は、栗山遺跡・下栗山遺跡範囲内において、道路・排水路建設及び圃場造成のために遺跡の消滅する部分について、長崎県島原振興局より委託を受けて行ったものである。

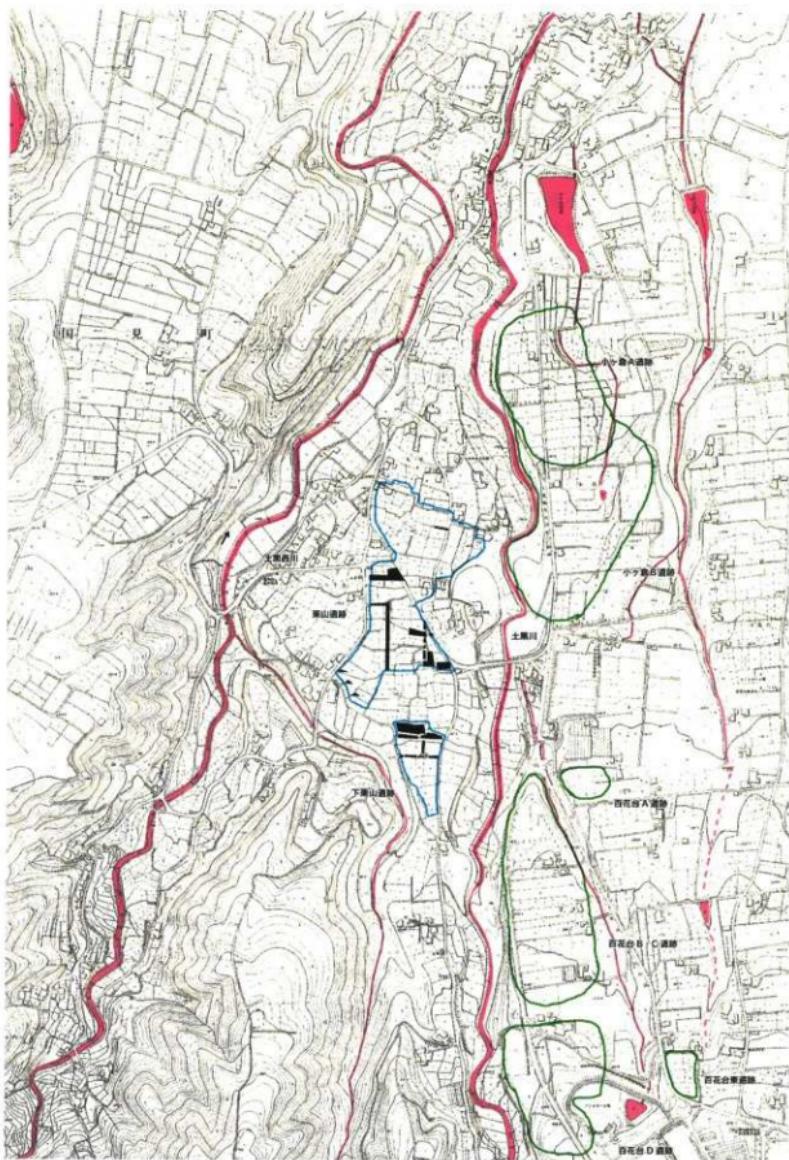
## 第2節 発掘調査の方法及び経過（第1・2・3図）

本調査は世界測地系を使用し、調査対象範囲（道路・排水路建設及び圃場造成のために遺跡の消滅する範囲）を20mメッシュに区切り、栗山遺跡に5区～28区・33区、下栗山遺跡に1区～4区・29区～32区を設定し順次調査を実施した。しかしながら、調査区の立地条件などにより、必ずしも20mメッシュの調査区とはなっていない。

栗山遺跡・下栗山遺跡は概ね畑地として利用されており、丘陵の傾斜に沿って畑地が耕作されており、その面積も大小さまざまである。傾斜の大きい部分では、これまでにも小規模な造成が行われておらず、試掘調査の結果でも、基盤層まで削られてしまっている部分、逆に、その上によって盛上された部分が交互に見られるなど、遺物包含層が削平されている部分も見られる。調査は重機により畑地の耕作土を除去した後、試掘調査の土層堆積状況を参考に、対象地内の遺物包含層及び遺構面までの深さを確認したうえで、再度重機による掘削を行った。その後の包含層掘削・遺構面の確認については全て人力による。

遺物については、旧石器時代の包含層出土遺物は全て三次元計測を行い出土位置を記録した。縄文時代の遺物については、集中して後・晩期の遺物の出土が見られた18区については、同じく三次元計測を行い出土位置を記録した。また、土器の一括資料が確認された、29区SK-39は実測図を作成した。遺構や調査区壁面の土層については、可能な限り実測図を作成した。また、旧石器時代の出土石器については、石器石材の産地同定するため、長崎県埋蔵文化財センターにおいて蛍光X線分析を実施した。出土総数1,498点中1,354点について分析を行った。接合関係にある土器については、そのうちの数点を計測し、全ての分析は行っていない。その結果、1,422点の土器について産地を明らかに（未発見の産地を含む）することができた。分析の内容については第4章にて後述する。

栗山遺跡・下栗山遺跡からは、旧石器時代～中世までの多種・多様な遺構・遺物が検出されている。旧石器時代については、AT前後の石器群が地点を離れて検出されており、石器集中地点が環状に巡る様子も確認される。縄文時代後期・晩期の土器については、御領式土器の深鉢がほぼ完形にまで復元されている。また、土器底部内面に付着した炭化物の炭素・窒素安定同位体比分析を行っている。そのほか、時期の特定は難しいが、落とし穴状遺構も多く検出されている。



第2図 遺跡周辺地形 (1/10,000)

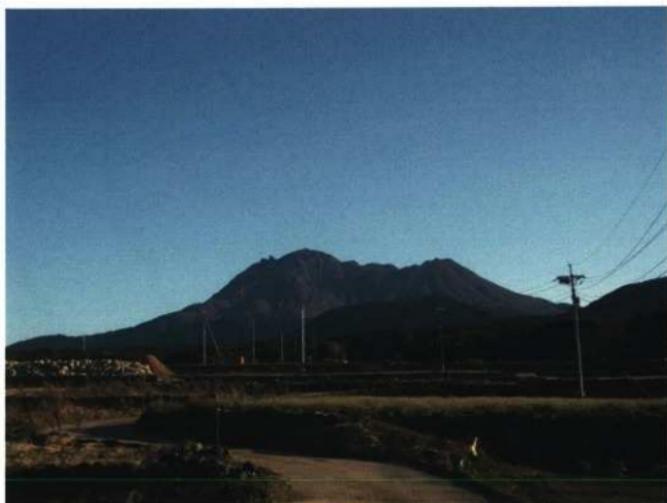
### 第3節 遺跡の地理的・地形的環境（第2・3・4図）

島原半島は長崎県南部、有明海にむかって胃袋状に突き出た半島で、雲仙普賢岳を頂点とした円錐状を呈する。半島の北側は、半島南側の急峻な地形と異なり、雲仙岳より続く細長い丘陵が海岸線付近まで伸び、丘陵と丘陵の間にはなだらかな火山性扇状地が広がる。雲仙市は島原半島のほぼ西半分を占め、栗山遺跡・下栗山遺跡の所在する、雲仙市国見町は、中央に土黒川・土黒西川が流れ、町内で最も標高の高い九千部岳（1,062m）から有明海に向かって撥状にひらく。近年、島原半島は世界ジオパークにも認定され、雲仙普賢岳の活動やその成り立ちについて、一般の市民層へも浸透している。火山とそこに住む人々とのかかわりは、災害との戦いと称される場合もあるが、火山活動による地形や土壤による恩恵も計り知れない。また、考古学的な侧面からも、火山灰分析結果などの面で同様である。

栗山遺跡・下栗山遺跡は、島原半島の北側、雲仙普賢岳から延びる丘陵上に広がっている。標高は170m～190m程である。遺跡東側を北上する、ひじくがわ土黒川の対岸には百花台遺跡群が立地し、一帯は旧石器時代～縄文時代の遺跡がひしめき合っている。土黒川との比高差は20mをはかり、急崖となっている。遺跡西側の土黒西川及びそれに注ぐ小河川との比高差も10m程である。百花台遺跡群は、幅の広い丘陵の西端の縁部分に展開するが、栗山遺跡・下栗山遺跡の所在する丘陵は、南側から続く幅の狭い丘陵が、少し広がった部分に見られる。下栗山遺跡部分がちょうど丘陵の幅の変化する地点である。それより南側は、丘陵の幅が極端に狭く、安定して生活できる場所ではなかったと考えられる。

#### 参考文献

久原巻二 1994 「第2章 地理的歴史的環境 I 地理的環境」川川肇編『県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』長崎県文化財調査報告書 第116集 長崎県教育委員会



栗山遺跡26区付近からの雲仙普賢岳



第3図 調査区配置図 (1/4,000)

## 第2章 基本土層

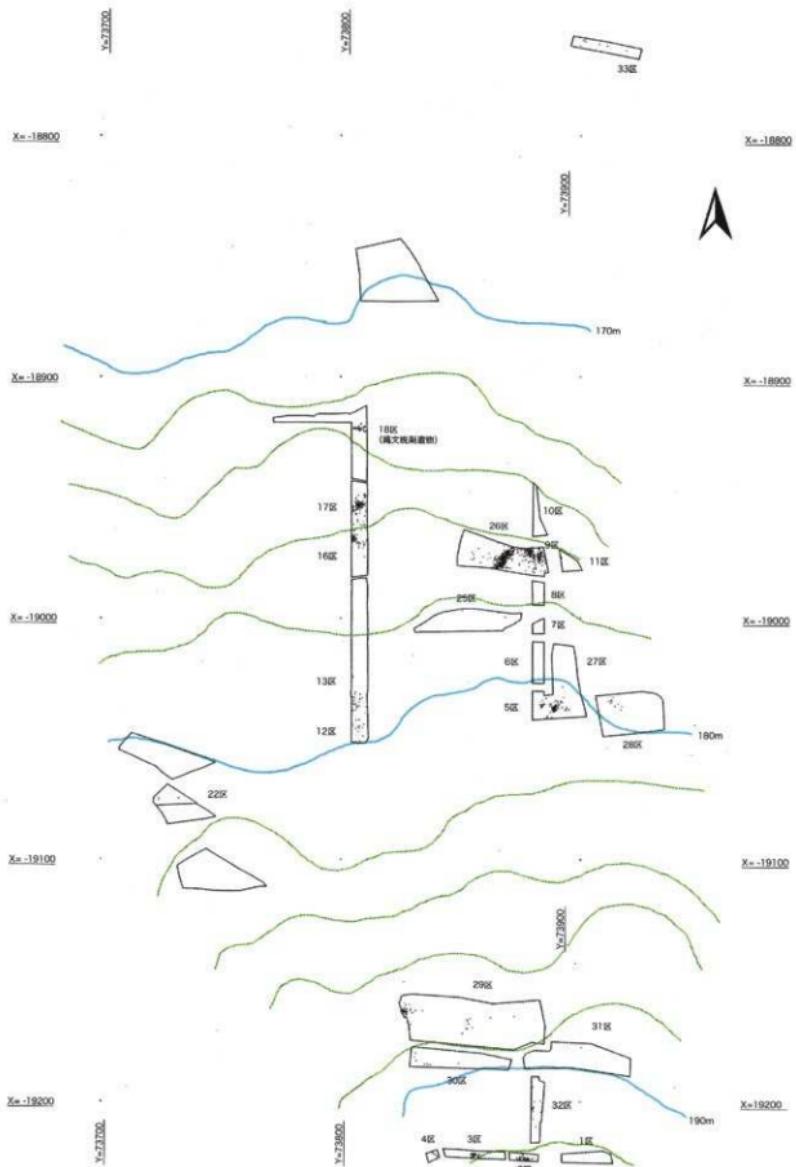
### 第1節 百花台遺跡群との対比

栗山遺跡・下栗山遺跡の基本土層は百花台遺跡群と比べると、最下層の第Ⅶ層～第VI層まではほぼ同様であるが、第V層より上位が大きく食い違う。百花台遺跡群では第V層にナイフ形石器群、第IV層では百花台型台形石器群、第III層で細石器石器群が検出されている。栗山遺跡・下栗山遺跡では第VII層より上位は地点によって大きくことなり、時代も様々で、不整合である。下栗山遺跡2区では、第VI層の上層から百花台型石器群が検出されている。百花台遺跡群では、非常に特徴的な第IV層（砾石原火碎流関連堆積層）から出土が見られるが、栗山遺跡・下栗山遺跡では第IV層をまったく見ることができない。試掘調査時に第IV層が欠落することは分かっていたため、下栗山遺跡での百花台型台形石器群の検出は予想を覆すものであった。

栗山遺跡・下栗山遺跡は東側を流れる土黒川を挟み、対岸には百花台遺跡群が所在する丘陵が広がる。こちらの丘陵も急崖となっており、両丘陵の間は深さ20m、幅100mほどの谷となっている。百花台遺跡群の地形については久原巻二（久原1994）によって、詳細な検討が行われており、それによると、百花台遺跡群のある丘陵も栗山遺跡・下栗山遺跡のある丘陵ももとはおなじで、土黒川による「浅く広い河道を作っていたころの氾濫源」であり、調査において検出された旧河谷の埋没状況から、その影響は第IV層堆積ごろまで、という。そのころの旧河谷の深さを5～6mと推測している。現在の河床から10m以上も上位となる。このことは栗山遺跡・下栗山遺跡の土層からも追認することができるのではないだろうか。栗山遺跡・下栗山遺跡では、第IV層はまったく見られない。第IV層の砾石原火碎流は百花台遺跡群より東側にかけて、より顕著な堆積（辻田2012）がみられるため、その中心は百花台遺跡群より東側と考えられる。直線距離で100m程しか離れていない百花台遺跡と栗山遺跡・下栗山遺跡における、第IV層のあり方は、間を流れる土黒川の位置がそのころには既に現在の位置に近い部分にあったものと考えられる。百花台遺跡群より東側を中心とする砾石原火碎流堆積物は、土黒川で隔離された栗山遺跡・下栗山遺跡ののる丘陵までは到達できなかつたのではないだろうか。今報告の結果から、栗山遺跡・下栗山遺跡の第VI層前後からは多くの石器群が検出されており、久原の言うとおり、「百花台遺跡群のある丘陵も栗山遺跡・下栗山遺跡のある丘陵ももとはおなじ」ということを現していると考えられる。

#### 参考文献

- 麻生 優・白石浩之 1976 「『九州・沖縄の遺跡 百花台遺跡』『日本の旧石器文化3 濱跡と遺物(下)』雄山閣出版株式会社
- 田川肇編 1994 『県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』長崎県文化財調査報告書第116集 長崎県教育委員会
- 久原巻二 1994 「第2章地理的歴史的環境」田川肇編『県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』長崎県文化財調査報告書第116集
- 辻田直人 2012 『小ヶ倉A遺跡』芸仙市文化財調査報告書第11集 長崎県芸仙市教育委員会



第4図 旧石器時代遺跡出土状況 (1/2,000)